

Google Sites（グーグルサイト）を活用した直接的な情報発信

郡山市立日和田小学校 主査 曾我 賢

発表の概要

1. はじめに
2. 結論
3. Google Sites（グーグルサイト）とは
4. 研究の経緯、実践事例（デモ版の紹介）
5. おわりに

1. はじめに

郡山地区では市内を5つの方部に分けて、それぞれが異なるテーマについて研究活動を進めています。私が所属する方部では「じむナビの更新」という研究テーマのもと活動をしていました。この「じむナビ」とは、郡山地区の成果物です。中身はいわゆる「教員向けハンドブック」で、初任者や学校事務にあまり詳しくない方にも気軽に読んでもらえるように工夫がされています。皆さんの地区でも研究が行われているのではないのでしょうか。郡山地区では年度末に更新を行い、各校にはデータで配付され、冊子やデータ共有といった形で各所属において活用が図られてきました。

今回は、これらの活動の過程において「じむナビ」のウェブ版である『いつでもじむナビ』が作られた経緯や実践事例について簡単に紹介をさせていただきます。

2. 結論

Googleサイトは結構使える

3. Google Sites（グーグル・サイト）とは

Googleサイトは、Googleが提供する無料のWebサイト作成ツールです。HTMLやCSSといったプログラミング言語の知識がなくても、テンプレートを選び、画像やテキストをドラッグアンドドロップするだけで簡単作成ができます。

Googleサイトの主な特徴とメリット

- 簡単な操作性

ドラッグアンドドロップなどの直感的な操作でWebサイトを作成でき、HTMLなどのコードを書く必要がありません。

- Googleサービスとの連携

Googleドキュメント、スプレッドシート、マップ、Googleフォーム、Googleドライブなど、他のGoogleサービスと連携できるため、既存のコンテンツを簡単に活用し、多様なコンテンツを作成できます。

- 無料利用

Googleアカウントがあれば誰でも無料で利用でき、費用を抑えてサイト作成に挑戦できます。

- 共同編集と閲覧制限

個人だけでなく、グループでのサイト管理に適しており、特定のユーザーにのみアクセス権を与えることで閲覧制限も可能です。これにより、社内ポータルサイトや業務マニュアルとしての運用にも向いています。

- レスポンシブデザイン

スマートフォンにも対応したサイトを構築できます。

- 独自ドメイン設定

ブランド認知度向上を目的としたサイトにも便利です。

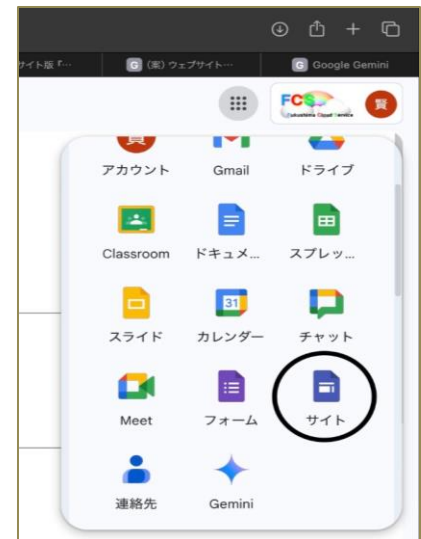
Googleサイトのデメリットと制限事項：

- デザインの自由度

テンプレートを活用して簡単にサイトを作成できる一方で、デザインの編集機能は限定的で、細部にわたるデザイン変更はできません。

- 階層の制限

5階層までしか作成できないという制限があります。



4. 研究の経緯、実践事例

長年続けられてきた「じむナビ」の更新ですが、私も何年間か作業に携わる中でいくつか課題と思われる部分が見えてくるようになりました。また、方部メンバー（長く携わっている方、他方部から来たばかりの方）の考えや作業に対するモチベーションについても知りたいと考えるようになりました。

- 更新作業の時期は適切か
- 作業分担の偏りを是正したい
- データ管理・データ共有の煩わしさを改善したい

また、ちょうどこの時期は現テーマから新テーマへの移行を望む意見が出始めていた時であり、自分たちが長く携わってきた「じむナビ」の利用状況や成果について改めて知りたいという意見も出ていたことを受けて、現状把握のためのアンケート調査を後日行うことを提案しました。

- R4. 2. 10 第1回調査（方部内会員対象の意識調査）
- R4. 7. 20 第2回調査（市内全会員対象の利用状況調査）

そして、第2回アンケート結果のうち以下の点に注目をしました。

Q3. 「じむナビ」を利用していますか？（回答60件）

（ア）よく使う	5 %（ 3 名）
（イ）たまに使う	4 5 %（ 2 7 名）
（ウ）あまり使わない	2 8 %（ 1 7 名）
（エ）ほとんど使わない	2 2 %（ 1 3 名）

考察：

- 「よく使う」が少なく、「たまに使う」が多い ⇒ 利用機会がそもそも少ない。または利用環境が限られている可能性。
- 「あまり使わない」、「ほとんど使わない」が多い ⇒ 別資料を利用している。存在が浸透していない。利用までの手間が煩わしい。

Q6. 「じむナビ」を使わない理由を教えてください（回答23件）

- | | |
|-----------------------|-----|
| （ア）ガジナビや他の手引書を利用している等 | 9件 |
| （イ）利用方法が分からない等 | 3件 |
| （ウ）その他 | 11件 |

考察：

- 「ガジナビ」と「じむナビ」を混同している方が多い。「じむナビ」が教員向けであることが浸透していない。
- 他地区からの転入者に対してその存在が知らされていない。

総合的な考察：

- 発信した情報（じむナビ）が目標（教員）までしっかり届いていない可能性。
- 特定の資料を利用するかしないかは、事務職員の考えや状況に拠る部分が大きい。
- 利便性、利用を促すPR等が足りていない。

これらの結果を踏まえ、今後の方針について改めて方部内で意見交換を行いました。

現テーマを継続するか、新テーマに移行するかが最初の議題でしたが、結果としては現テーマを継続することで意見がまとまりました。協議では、せっかく継続するのであればより良いものにしていきたいという意見も多く有りました。ただし、新テーマについては今後も検討を継続し、現テーマ完了時に備える、ということを全員で確認をしました。また、次のような意見も出されました。

- 様式集としての機能もあると良いのでは？
- より活用されるシステムの検討が必要では？
- 研究として続けるのであればそれなりのクオリティが必要では？

確かに、機能の拡張やクオリティの向上は利用促進のためには重要と思えますが、一方で注意も必要です。量や質を上げる場合、維持管理コスト（費用、時間、労力）も増えてしまう可能性があります。取り扱われる情報が増える事は利用者にとっては有益ですが、安易に行ってしまうと更新作業にかかる自分たちの負担が増大してしまい、逆に品質の低下を招いてしまうことも考えられます。

今回は第2回アンケート結果の考察に上がった課題の解決を最優先事項として位置付け、「情報をターゲットまでしっかり届ける」ことを当面の目標としました。また、取り扱う情報量・高度な作業は極力抑えながら、自分たちが「持続可能」な規模を保っていくことも加えて確認しました。

なお、この時点で既にインターネットを利用するアイディアは係内でも出されていました。もし実行するのであればどのようなツールを利用するのが最良なのか、非常に重要な選択でした。

なぜGoogleサイトを選んだのか：

- たまたまGoogleワークスペースにあったから
- 利用料が無料
- サイト開設までのプロセスが非常に簡単
- 閲覧制限が設定できる
- 外部からの検索に引っかかりにくくする設定が可能
- データ管理、更新作業の共同編集が容易
- 他のGoogleワークスペースツールとの組み合わせが可能

これらの機能を使えば「やりたいこと」＋「思いもしなかったこと」まで実現できるかもしれないと思えたことが決め手になったと思います。

なぜ冊子版からウェブ版に変更したのか：

- いつでも手軽に利用してもらうため
- より直接的な情報提供が可能となるため
- 事務職員の手間が省ける（印刷・配付からの解放）
- 更新用データの保管場所・共有方法が確保できる（Googleドライブの利用）
- 「リンク集」を付け加えたかった

「リンク集」とは：

学校で働く教職員にとって有益と思われる外部サイトを集めて紹介するためのものです。自分で調べようとすればある程度は出来てしまう今の時代背景に合わせて、「じむナビ」では賄えない部分を補い、より専門的で詳細な情報に誰でも容易に辿り着けるように、役立つ関連情報を掲載している外部サイトの入り口まで案内（ナビゲーション）することを目的として作成しました。

メリット：

- 有益な情報を無駄なく、無理なく提供できる
- 少ない手数で取り扱う情報量を増やすことができる
- 更新の手間が省略できる
- 利用者が正しい情報に辿り着くまでのプロセスを省略できる
- 既存の「じむナビ」に価値を付加することで以前よりも利用価値を高めたい

具体的なイメージを方部メンバー内で共有するために試作版を作成し、閲覧してもらい、その後の方部事務研において意見交換を行いました。また、方部内における試行運用と利用者アンケートを実施して検証を行うことを提案しました。その後、方部内の学校長宛に文書と周知用チラシを送付し、職員への周知と検証（利用者アンケート）への協力を依頼しました。（別紙1）

● R5. 10. 27 第3回調査（方部内の全教職員対象の利用者アンケート）

現在は、方部としては新たな研究テーマに移行しているため、係の人数を縮小して更新グループとして活動を続けています。第3回調査結果の考察がほぼ終わり、正式な運用が開始されました。次は市内全校を対象とした調査・検証も実施したいと考えています。

5. おわりに

私はICT関連に明るい人間ではありませんが、今回の取り組みのおかげで色々学ぶことができました。今回、紹介したGoogleサイト以外にも業務に活用できるツールはたくさんあるようです。皆さんも一度挑戦してみてはいかがでしょうか。

最後に、先日初めて『Gemini（Googleの生成AI）』を使ってみました。「学校事務 Googleサイト」とだけ入力してみたところ、以下の回答が返ってきました。とても興味深い内容だったので、よかったら読んでみてください。

学校事務においてGoogleサイトを活用することは、情報共有の効率化、業務のペーパーレス化、保護者や生徒への情報発信の強化など、多くのメリットがあります。

以下に、学校事務におけるGoogleサイトの活用方法と事例、テンプレートについてまとめました。

学校事務におけるGoogleサイトの活用方法

Googleサイトは、専門知識がなくても簡単にWebサイトを作成できるツールです。学校事務で活用する場合、以下のような使い方が考えられます。

1. 校内情報ポータルサイトの構築：

- ・職員向けの共通情報（会議資料、各種申請書式、マニュアル、連絡事項、行事予定など）を一元的に集約し、いつでもアクセスできるようにする。
- ・部署ごとのページを作成し、それぞれの業務に必要な情報を整理する。
- ・Googleドライブと連携し、必要なファイルを簡単に共有する。
- ・職員会議の議事録や配布資料を掲載し、ペーパーレス化を推進する。
- ・Googleカレンダーを埋め込み、職員全体のスケジュールを共有する。
- ・災害時などの緊急連絡先や対応マニュアルを掲載する。

2. 保護者・生徒向け情報発信サイト：

- ・学校からのお知らせ、年間行事予定、給食献立、部活動情報などを掲載する。
- ・緊急連絡（休校、時間変更など）を迅速に発信する。
- ・各種申請書（転校手続き、証明書発行など）のダウンロードリンクを設置する。
- ・学校の特色や教育活動を紹介し、広報活動に役立てる。
- ・よくある質問（FAQ）をまとめる。

3. 特定のプロジェクトや委員会ごとの情報共有：

- ・学校行事（運動会、文化祭など）の実行委員会や、特定のプロジェクトチーム内で、企画・書、進捗状況、担当割り当てなどを共有する。
- ・共同編集機能を活用し、効率的な作業を促進する。

4. 各種申請・問い合わせフォームの設置：

- ・Googleフォームと連携し、欠席連絡、来校予定、各種申請などをオンラインで受け付ける。これにより、電話対応の負担軽減やデータ集計の効率化が図れる。

活用事例

- ・ **職員用ポータルサイト**：多くの学校で職員向けのポータルサイトとして活用されており、会議資料、行事予定、各種マニュアル、校内連絡などを集約している事例が見られます。これにより職員間の情報共有がスムーズになり業務効率が向上しています。
- ・ **生徒用ポータルサイト**：生徒向けの連絡事項、予約フォーム、図書館だよりなどを掲載し、生徒がいつでも必要な情報にアクセスできるようにしている事例があります。
- ・ **各種テンプレートの集約**：学年会計、出張命令書、働き方改革事例集、校章データ、生徒指導の累積記録など学校で共通で使用するテンプレートをGoogleサイトに集約している事例もあります。これにより場所の説明が不要になり効率化につながります。
- ・ **部活動紹介や進路情報サイト**：各部活動の活動状況や、卒業生の進路情報をGoogleサイトでまとめている学校もあります。

テンプレートについて

Googleサイトには、いくつかの標準テンプレートが用意されており、その中に「教育」カテゴリもあります。これらをベースに、学校のニーズに合わせてカスタマイズしていくのが効率的です。

テンプレートの利用方法：

1. Googleサイトにアクセスします。
2. 「テンプレートギャラリー」をクリックします。
3. 「教育」カテゴリから、目的に合ったテンプレートを選択します。
4. 選択したテンプレートを基に、テキスト、画像、Googleドライブのファイル、Googleカレンダーなどを配置して、独自のサイトを作成します。

Googleサイトを活用する上でのポイント

- ・ **情報の一元化**：散在している情報をGoogleサイトに集約することで、どこに何があるか分かりやすくなります。
- ・ **アクセスのしやすさ**：クラウドベースなので、インターネット環境があればどこからでもアクセス可能です。スマートフォンからも閲覧しやすいレスポンスデザインに対応しています。
- ・ **共同編集**：複数の担当者が同時にサイトを編集できるため、情報更新がスムーズに行えます。
- ・ **連携性**：GoogleWorkspace（旧G Suite）の他のツール（Googleドキュメント、スプレッドシート、スライド、フォーム、カレンダーなど）とシームレスに連携できます。
- ・ **セキュリティ**：閲覧制限を設定することで、公開範囲を柔軟に管理できます（一般公開、リンクを知っている人のみ、特定のGoogleアカウントのみなど）。

学校事務の効率化と情報共有の促進のために、Googleサイトは非常に有効なツールと言えるでしょう。